

平成30年第2四半期 決算説明会

株式会社 大日光・エンジニアリング (証券コード:6635)

平成30年8月28日
代表取締役社長
山口 侑男

本件資料は、投資家の皆様の参考に資するため、株式会社大日光・エンジニアリング(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成いたしましたものです。

資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢、及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性がございます。

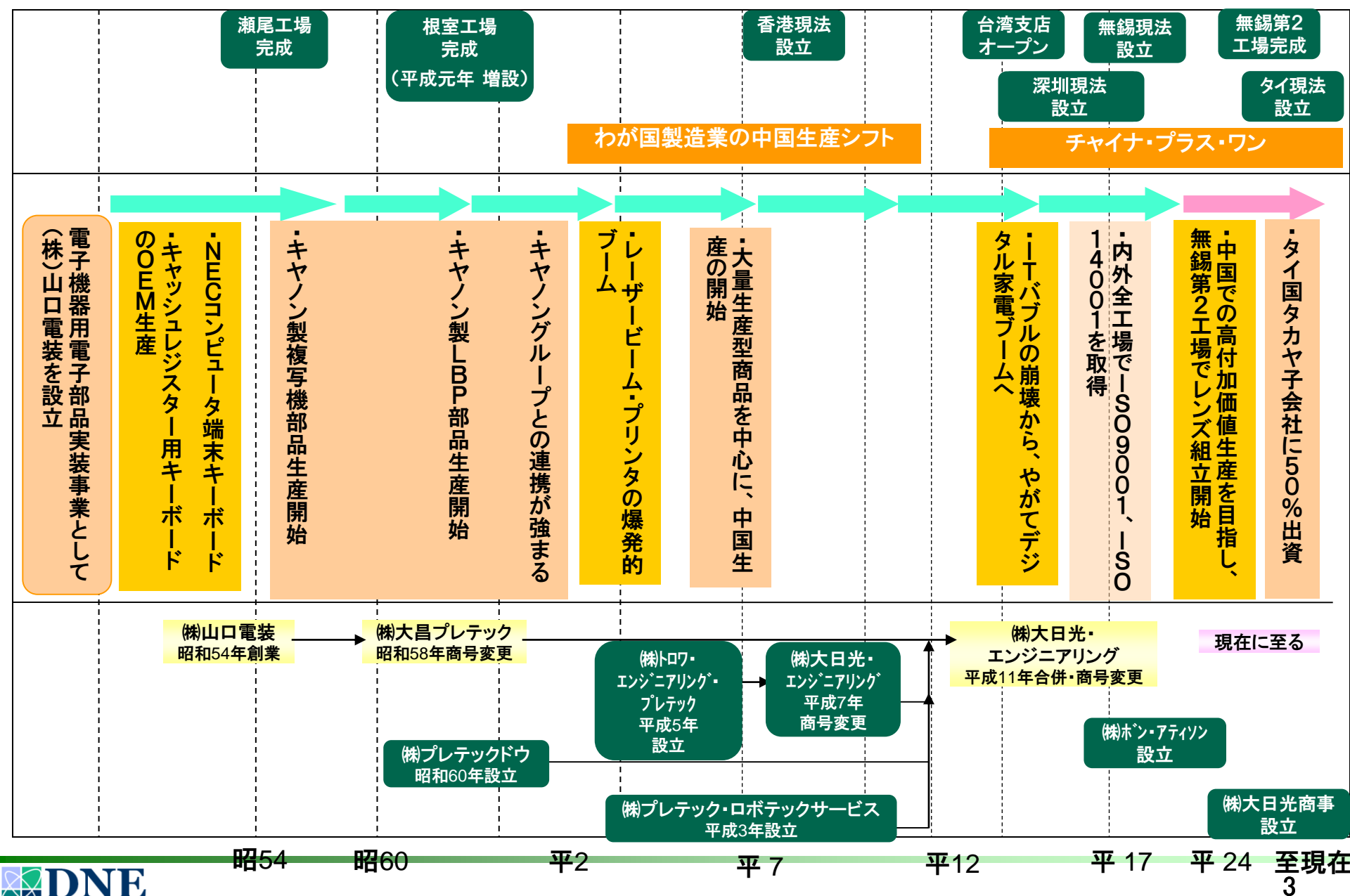
投資に際しての最終的なご判断は、ご自身のご判断でなされますようお願い申し上げます。

- ➔ **会社概要/沿革等** P. 2 ~ 5
- ➔ **経営成績概要/分析** P. 6 ~ 16
- ➔ **中長期的な会社の経営戦略**
..... P. 17 ~ 21

会社概要

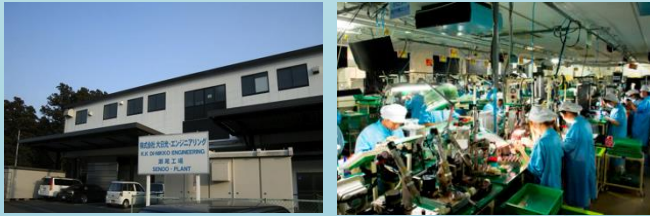
- ◆ 会社名 株式会社 大日光・エンジニアリング
- ◆ 英訳名 Di-Nikko Engineering Co.,Ltd.
- ◆ 代表者 代表取締役社長 山口 侑男
- ◆ 本社所在地 栃木県日光市瀬尾33番地5
- ◆ 設立 昭和54年9月
- ◆ 公開市場 東京証券取引所JASDAQ(証券コード:6635)
平成19年3月上場
- ◆ 資本金 8億5,630万円(平成29年12月末現在)
- ◆ 従業員数 単体 235人 連結 1,407人(平成29年12月末現在)
- ◆ 主要業務 電子部品実装を核とするエレクトロニクス製品の受託加工事業
基板設計から、最適部品の調達、技術者の派遣、製造、物流までのサービスを一貫して提供
- ◆ 連結子会社 国内2社、海外4社(平成29年12月末現在)
- ◆ 持分法適用関連会社 海外1社 (")

沿革



DNEグループ国内拠点 - Domestic Locations-

瀬尾工場 昭和54年生産開始



- 精密機器組立工場
- クリーンルーム有り (クラス10000 有人時)
- 工場面積2,600㎡
- 今市インターより10分(今市警察署斜め向かい)

杉の郷工場 平成22年生産開始



- 基板実装生産工場、その他
- SMT 5LINE
- 工場面積3,200㎡
- 大沢インターより15分 (杉の郷カントリー横)

轟工場 平成23年生産開始



- 精密光学機器組立工場
- クリーンルーム有り (クラス5000 有人時)
- 工場面積5,500㎡
- 今市インターより20分 (大日光工業団地内)

根室工場 昭和60年生産開始



- 本社機能、調達拠点、設計拠点、基板実装生産工場
- SMT 6LINE
- 工場面積6,000㎡
- 大沢インターより10分(県青少年スポーツセンター向かい)



DNEグループ海外拠点 - Overseas Locations -

TROIS ELECTRONICS(WUXI)CO.,LTD.



第一工場



第二工場

- 第一 ■ 江蘇省無錫新区開發区内
- 第二 ■ 上海虹橋空港より車で1.5時間

NEW TROIS ELECTRONICS(SHENZHEN) LTD. 福永工場

彩煌（深圳）龍華第二工場



福永工場



彩煌工場

- 福永 ■ 広東省深圳市宝安区福永工業団地内
- 深圳宝安空港より車で15分
- 彩煌 ■ 広東省深圳市龍華区
- 香港-深圳国境地点より車で30分

TROIS THAILAND CO., LTD.



- チョンブリ県
- シーラーチャー郡
- ピントン工業団地
- フェーズⅡ



TROIS ENGINEERING PRETEC HK LTD.



- 香港事務所・倉庫
- 香港新界沙田
- KCR石門駅より徒歩5分

平成30年第2四半期連結経営成績概要

連結損益計算書

(単位:百万円)	平成29年 第2四半期	平成30年 第2四半期	対前年同期 増減	対前年同期 増減率
売上高	12,729	12,649	△79	△0.6%
売上総利益 (売上総利益率)	1,064 8.4%	1,146 9.1%	81	7.7%
営業利益 (営業利益率)	79 0.6%	71 0.6%	△7	△10.0%
経常利益 (経常利益率)	134 1.1%	44 0.3%	△89	△67.0%
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (純利益率)	114 0.9%	△37 △0.3%	△152	—

連結経営成績に関する分析(第2四半期累計売上高)

(1) 日本の売上高：5,120百万円(前年同期比14.8%増)

- 【要因】
- ・ 産業機器用・・・半導体メーカーの大型投資が継続していることより横這い
 - ・ オフィス・ビジネス機器用・・・前年同期比持ち直したが低い生産量のまま
 - ・ 社会生活機器用・・・消費回復が継続していることから堅調に推移
 - ・ 遊技機向け・・・顧客多層化により前年同期比増収
 - ・ 医療機器用向け・・・精密検査機器を中心に前年同期比大幅増収

(2) アジアの売上高：7,528百万円(前年同期比8.9%減)

- 【要因】
- ・ 香港・中国深圳子会社・・・最終メーカーの東南アジアへの生産シフトに伴う
需要減少
 - ・ 中国無錫子会社・・・産業機器用・車載機器用生産は増加傾向
 - ・ タイ子会社・・・車載機器用を中心に量産体制整い、売上増加



連結売上高:12,649百万円(前年同期比0.6%減)

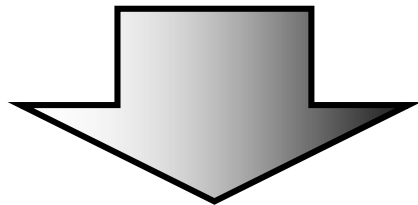
連結経営成績に関する分析(第2四半期累計損益)

(1) 連結営業利益:71百万円(前年同期比10.0%減)

- ・中国における売上減少および人件費増加による製造経費・販管費の増加

(2) 連結経常利益:44百万円(前年同期比67.0%減)

- ・第2四半期に起こった急激な元安に伴う為替差損が発生



上記に加えて、

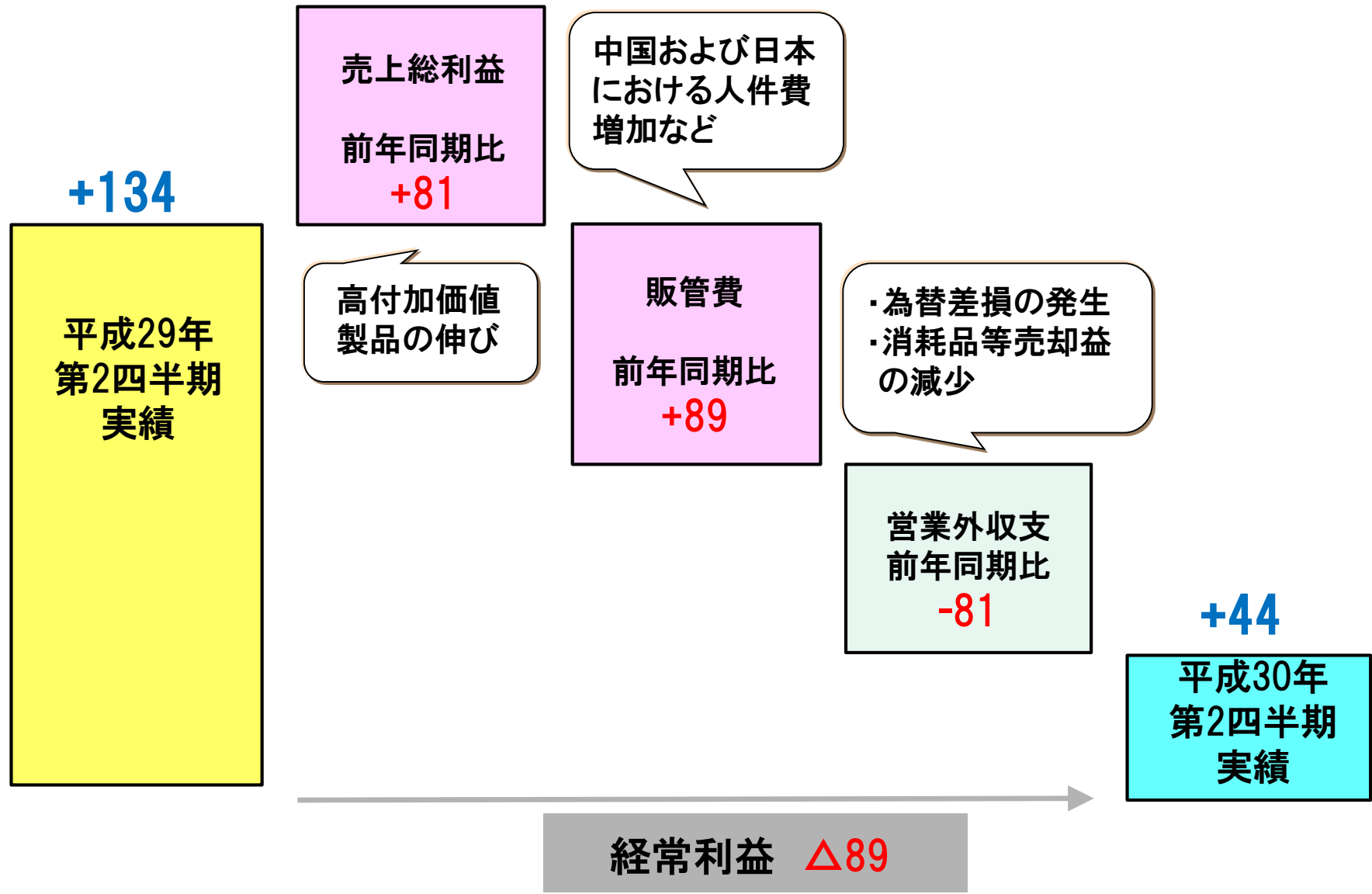
- ・固定資産売却による特別利益
- ・固定資産除売却による特別損失

親会社株主に帰属する

四半期純損失:37百万円(前年同期は114百万の利益)

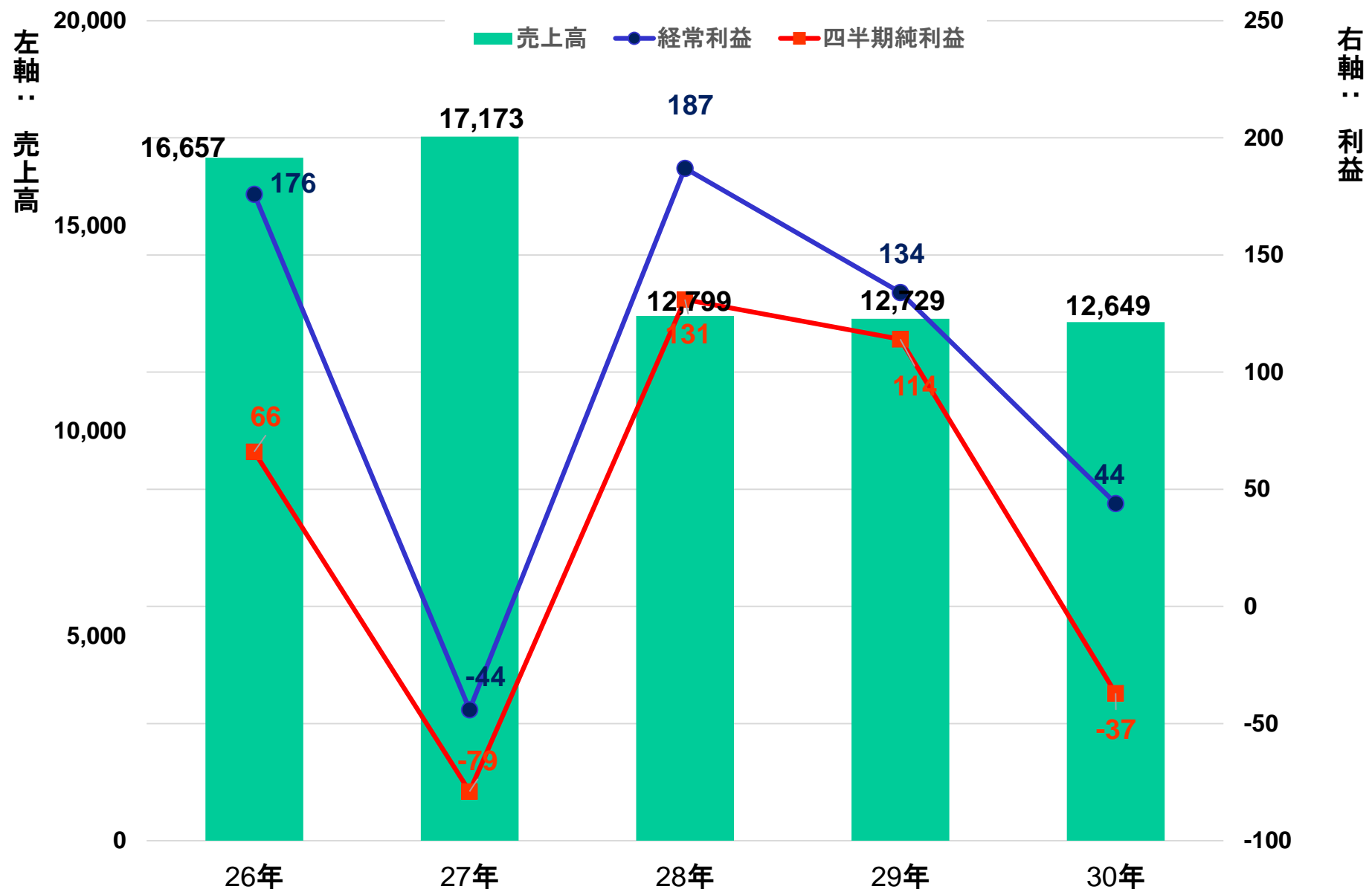
連結経常利益減少要因分析(第2四半期累計)

(単位:百万円)



連結業績推移(第2四半期累計)

(単位:百万円)

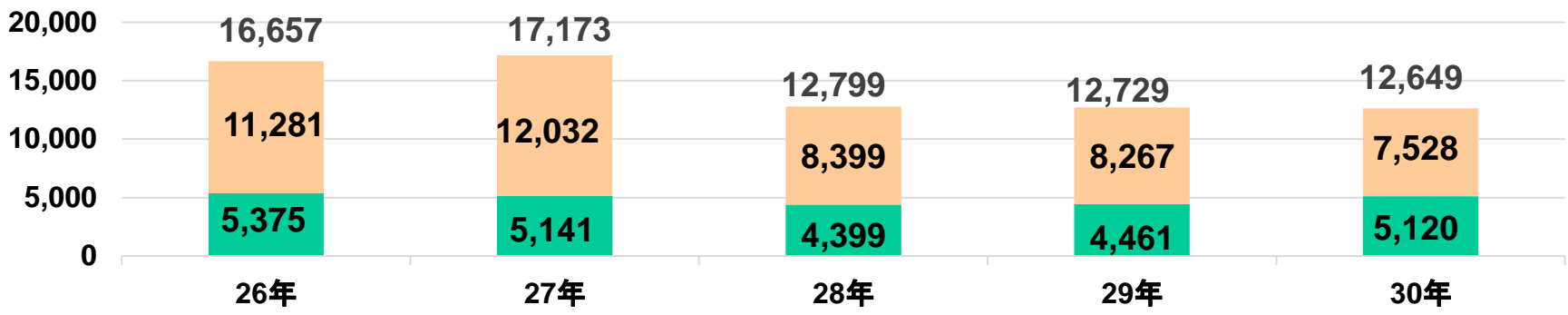


報告セグメントごとの第2四半期累計売上高、及び利益又は損失の金額推移

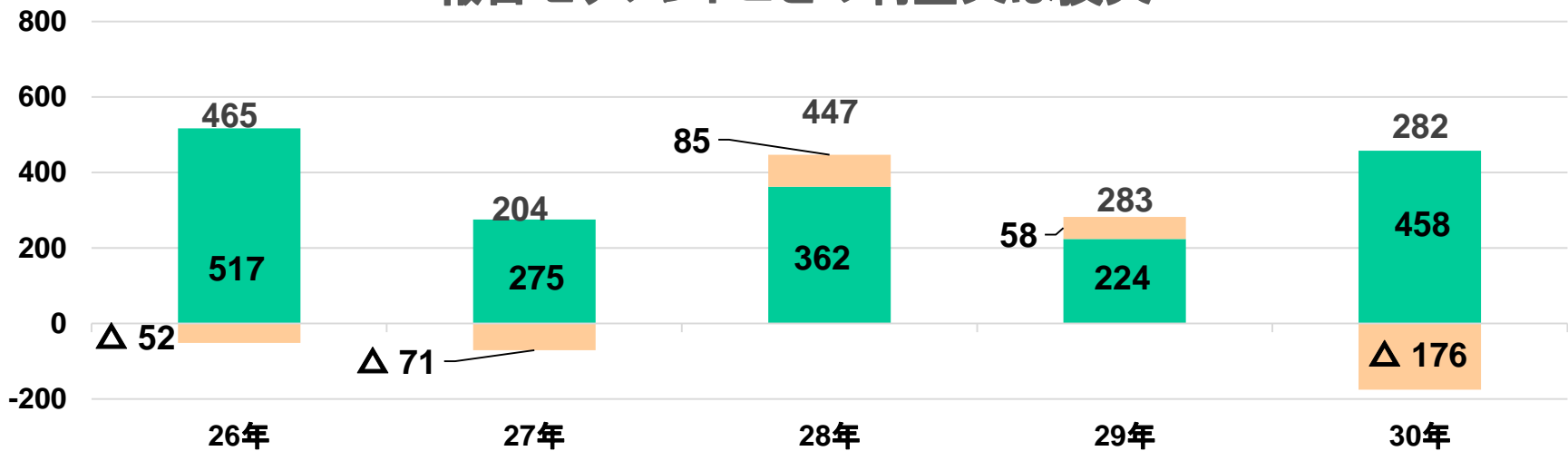
(単位:百万円)

報告セグメントごとの売上高

■ 日本 ■ アジア

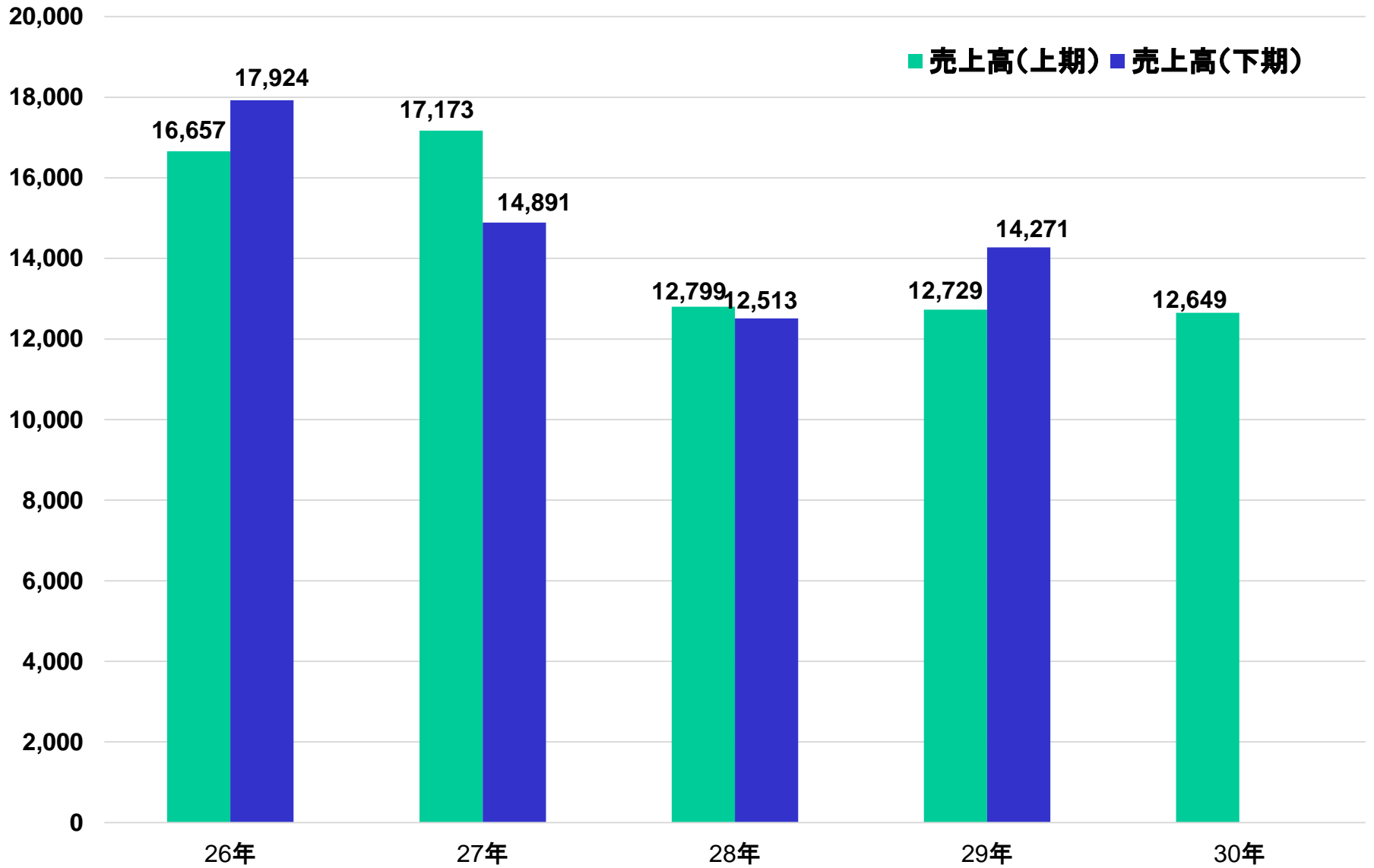


報告セグメントごとの利益又は損失



上期・下期別売上高動向

(単位:百万円)



連結貸借対照表(主な勘定の増減)

(単位:百万円)

		平成29年 12月31日	平成30年 6月30日	増減			平成29年 12月31日	平成30年 6月30日	増減
資産	現金及び預金	2,249	2,028	△221	負債	支払手形及び 買掛金、でんさい	4,862	5,243	380
	受取手形及び 売掛金、でんさい	6,132	6,468	335		短期借入金	1,843	1,608	△235
	棚卸資産	4,386	4,689	303		1年内返済予定長 期借入金	2,157	2,394	236
	その他	476	431	△45		その他	1,024	1,117	92
	流動資産	13,245	13,617	372		流動負債	9,888	10,362	474
	有形固定資産	3,637	4,114	477		長期借入金	4,289	4,859	569
	無形固定資産	130	119	△11		その他	126	175	49
	投資その他	1,028	1,024	△3		固定負債	4,416	5,034	618
	固定資産	4,796	5,258	462		負債合計	14,304	15,396	1,092
						純資産	資本金	1,419	1,419
				資本剰余金					
				利益剰余金	1,393		1,325	△68	
				為替換算調整勘定	943		803	△140	
				その他	△19		△69	△49	
				純資産合計	3,737	3,479	△257		
資産合計	18,041	18,876	834	負債/純資産合計	18,041	18,876	834		

連結財政状態に関する分析(資産・負債及び純資産の状況)

(総資産) 前連結会計年度末比834百万増の18,876百万円

- ・ **流動資産**:受取手形及び売掛金、原材料及び貯蔵品が増加
⇒ 前連結会計年度末比372百万円増の13,617百万円
- ・ **固定資産**:有形固定資産が増加の一方、投資その他の資産が減少
⇒ 前連結会計年度末比462百万円増の5,258百万円

(負債) 前連結会計年度末比1,092百万円増の15,396百万円

- ・ **流動負債**:支払手形及び買掛金、1年内返済予定の長期借入金が増加の一方、短期借入金が減少
⇒ 前連結会計年度末比474百万円増の10,362百万円
- ・ **固定負債**:長期借入金が増加
⇒ 前連結会計年度末比618百万円増の5,034百万円

(純資産) 前連結会計年度末比257百万円減の3,479百万円

- ・ 利益剰余金及びその他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定が減少

連結財政状態に関する分析(キャッシュ・フローの状況)

四半期連結キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)	A) 営業活動による キャッシュ・フロー	B) 投資活動による キャッシュ・フロー	C) 財政活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 四半期末残高
30年第2四半期 連結累計期間	△21	△748	595	2,028
29年第2四半期 連結累計期間	567	△232	187	2,883

(現金及び現金同等物) 前連結会計年度末比221百万円減の2,028百万円

A) 営業活動の結果使用した資金:21百万円

・主に、売上債権、たな卸資産及び仕入債務の増加があったことによる。

B) 投資活動の結果使用した資金:748百万円

・主に、有形固定資産の取得による支出709百万円があったことによる。

C) 財務活動の結果獲得した資金:595百万円

・主に、長期借入金の純増810百万円があった一方、短期借入金の純減182百万円があったことによる。

平成30年第2四半期連結業績予想値と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想(A)	13,000	100	80	50	19.26
今回実績値(B)	12,649	71	44	△37	△14.35
増減額(B-A)	△350	△28	△35	△87	-
増減率	△2.7%	△28.1%	△44.7%	-	-
(ご参考)平成29年 第2四半期実績	12,729	79	134	114	44.05

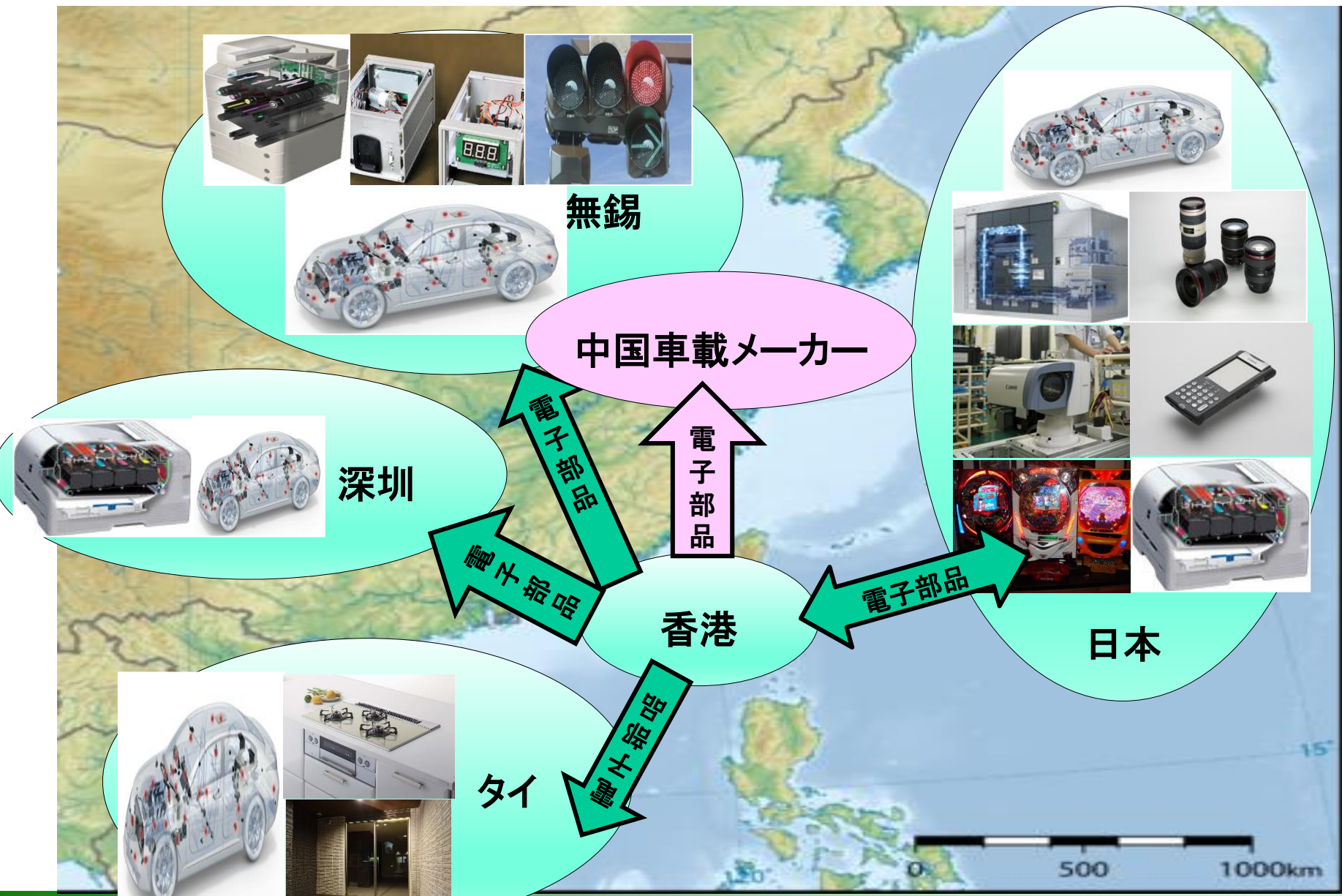
差異の理由

- 損益面では、香港・深圳子会社が部品供給逼迫に起因して生産調整を強いられたこと、中国2子会社において人件費上昇等により製造原価が増加したこと、国内外において価格競争激化によって付加価値が低下したこと等から、連結営業利益は71百万(前回予想比28.1%減)となりました。また、海外子会社において第2四半期に起こった急激な自国通貨安に伴い為替差損が発生したことから、連結経常利益は44百万円(前回予想比44.7%減)となりました。
- 上記に加えて、固定資産売却による特別利益、固定資産除売却による特別損失、法人税等を加減した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は37百万円となりました。

中長期的な会社の経営戦略(各事業所別):現状

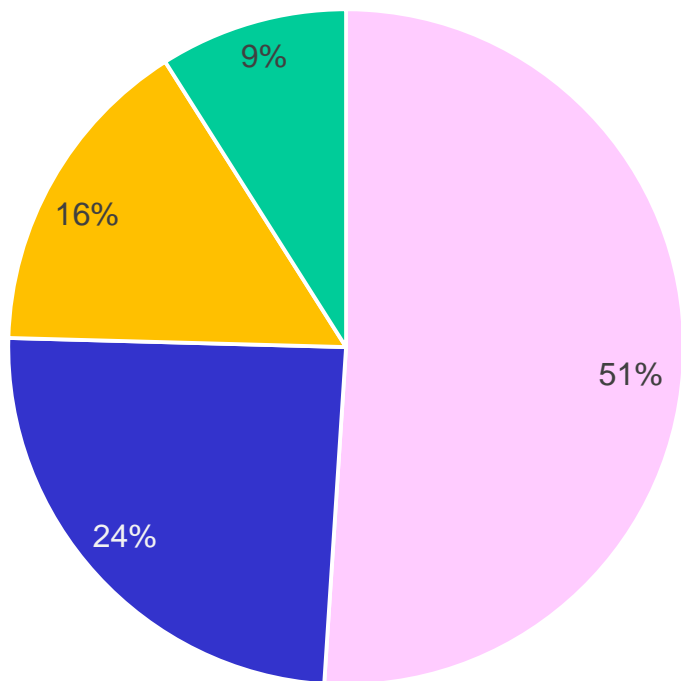


中長期的な会社の経営戦略(各事業所別):3年後



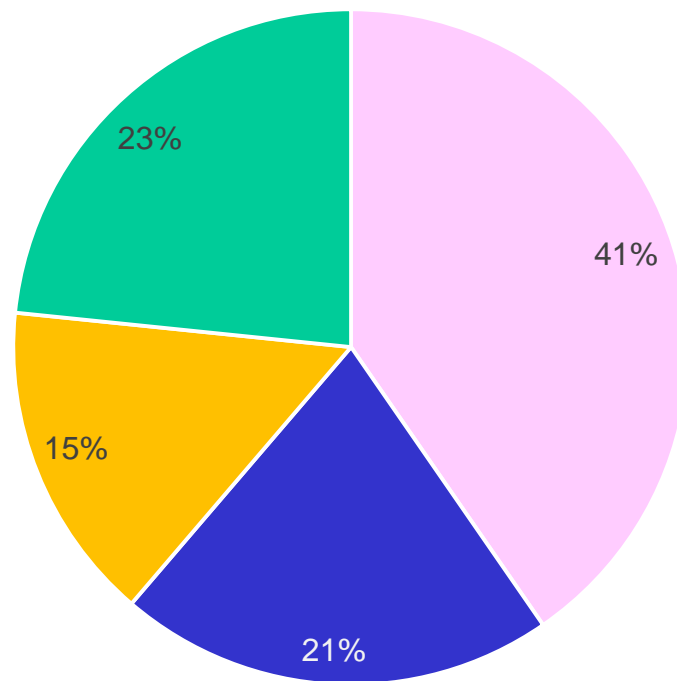
中長期的な会社の経営戦略：最終製品ジャンル別売上構成の変化

2017年実績



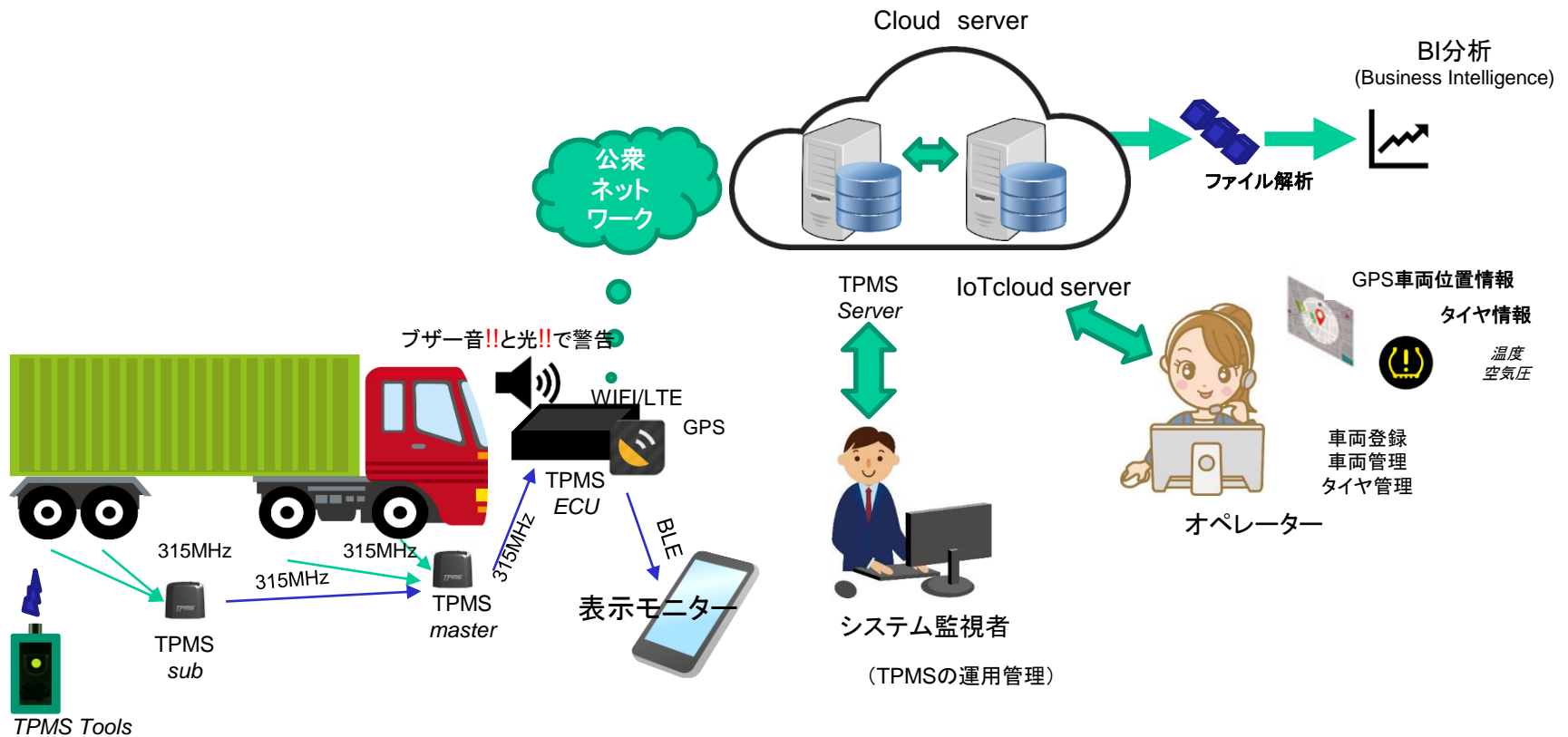
■ OBU ■ 社会生活 ■ 産業・医療機器 ■ 車載

2019年予測



■ OBU ■ 社会生活 ■ 産業・医療機器 ■ 車載

タイヤモニタリングシステム



中国車載メーカーとのコラボ

